

月華の節

五五五

馬場あき子歌集



月華の節

げっかのせつ

馬場あき子歌集

立風書房

馬場あき子

1928年、東京に生まれる。歌誌「かりん」を編集、発行。現代歌人協会理事。

〔歌集〕『早笛』『地下にともる灯』『無限花序』『飛花抄』『桜花伝承』『雪鬼華麗』『ふぶき浜』『晩花』『葡萄唐草』『雪木』など。

〔著書〕『式子内親王』『鬼の研究』『古典余情』『歌枕をたずねて』『風姿花伝』『短歌への招待』『季節のことば』ほか多数。

歌集・月華の節

一九八八年十二月十五日印刷

一九八八年十二月二十五日発行

著者 馬場あき子 ©Akiko Baba 1988

装釘者・伊藤鑛治

発行者・下野博

発行所・株式会社立風書房

東京都品川区東五反田三丁目六一一八

電話・東京(四四七) 一一九一 振替東京五―七四四九三

印刷・図書印刷株式会社

製本所・株式会社難波製本

定価 三五〇〇円

乱丁・落丁本は、直接小社通信販売部へお送りください。小社送料負担でおとりかえいたします。無断複製（コピー）を禁ず。

ISBN 4-651-60037-9

月華の節・目次

柳		セ
秋風帖		二
ほうとゐるひと		三
ちりひぢ		七
くらしの秋		四
青椿		五
恃む		六
木枯		三
隠れば春		七
種の瞑想		八

熊野へ……………八

羊齒……………九

つひに花咲く……………二六

まつしろき入道雲よ……………二九

悔いは誰しも……………三七

出羽のかみ山……………三〇

月代を見むとし立てば……………三七

近代の香り……………一四

されどなほ……………一五

有馬の湯……………一五

林檎……………一六

冬のひかり……………一六

おぼおぼとわれ……………一七

出羽黒川……………一五

あとがき……………一六

月華の節

柳

——那須の芦野に遊行柳あり。昔遊行の上人に言葉
を交しし柳朽ちて、若柳立つ。風光なつかしく訪れ
ること三たび——

下野しもつげの芦野の柳若柳むかし知らねばさはや
かに散る

バビロンの琴かけ柳たけたるや聖ききにし
へも古びそめたり

下野も芦野に入りてさびしきよわが見に来
たる遊行の柳

遊行ゆきし中世の秋そののちを芭蕉立ち去
り柳残れる

ものの書かず物は思はず何事か現^う実^っに負けて
見に來し柳

雄^を柳やな太陽好きの陽気さに快晴の声ゆら
ゆらと上ぐ

わが見たる渭^ゐ水^{すい}の柳壮年の力に大陸の陽を
抱きゐし

身若くて徒^{あた}なるごとく振舞ひし春忘れねど
柳散りそむ

沿道に色ある秋の花乱れわれとさやげり遊
行の柳

老いて身に朽ちゆかぬ情かなしけれ柳とな
りてしばしあれかし

謎のごと魅力なくせし一人を問はむとしつ
つ柳みてをり

川の辺のイヌコリ柳立柳たちやなぎひとり生きをる秋
陽しづけし

別るると縮おさねし柳みな解けて秋の風吹く道
までは来つ

物言へよ物言へよとも見てあれば遊行柳に
雨後の霧たつ

人間になりたがりある老い柳風のみ渡る繁
りさびしも